

秋のハイキングへ参加して

中風封じ田村寺と垂坂公園コース 11km

令和3年11月13日(土)

1. ルート 近鉄「川越富洲原」駅→田村寺→茂福神社・伊賀留我神社→浄恩寺→垂坂公園→「霞ヶ浦」駅
2. 参加者 市川義行、伊藤利男、伊橋健治、喜吉 雄、塩野輝雄、高木 勉、伝田 貢、中村軍志、中村 衛、浜田 一、福本 泉、溝川紳一（敬称略） 12名
3. 参加報告

社友会行事もコロナ感染症予防のため、昨年、令和2年2月に行われました総会・新春懇親会を最後にほとんどの行事が中止となりました。そのような中、ハイキングは昨年11月の開催に続き、約1年ぶりとなる久しぶりの社友会行事となりました。

温暖化の影響でしょうかハイキング当日は、11月中旬としては凜と張り詰めた空気の中にも小春日和のような温かさを感じる晴天となりました。



自宅から鈴鹿山脈を望む



川越富洲原駅での集合写真

今回のスタート地点は、近鉄「川越富洲原」駅西口でした。橋上駅舎化により木造の駅舎が建直されたとのことで、全体が白いとてもキレイな駅でした。

駅のロータリーの中にあるモニュメントの前で出発前の集合写真を撮りました。ほとんどの方が1年ぶりの再会となりましたが、お変わりなくいつものメンバーが集合され、コロナ禍で生活習慣も変化する中、何かほっと安心するものを感じました。

今回のコース距離は約11km、歩数 17,000 歩(歩幅 65cm、短い?)で、お寺に始まりお寺で終わる名所旧跡巡りコースでした。皆様もご存じのところが多いと思いますが、地元巡りの旅に、さあ、一緒に出掛けましょう。

まず最初に向かったのが中風封じの法要で有名な「田村寺」でした。地元では「かぼちゃ大師」として親しまれているようです。丁度、秋の植木の剪



田村寺境内にて

定時期でもあり、暖かい日差しの中、植木屋さんがのどかに松の剪定をしていました。



田村寺入口

弘法山 田村寺(西富田の弘法山)

創立は江戸時代末期、寺伝によれば平安時代初期の武将、坂上田村麻呂公が東征の帰路この地で休息した際、村人のおもてなしに感謝され田村の姓を下賜される。

明治時代に、大慈遍照二世の大導師が弘法大師を信奉し、信徒と共に厄除大師の恩恵に浴し、大師堂を建立。

毎年、冬至の日には、中風除けの祈禱会に「かぼちゃぜんざい」が振る舞われ、かぼちゃ大師の日として親しまれている。

私たちが子供の頃は、中風とか中気とかいう言葉をよく聞き、子供心に何か怖い病気という印象がありました。しかし、最近ほとんど耳にしなくなったような聞かします。代わりに脳梗塞、脳卒中、脳血栓という言葉が良く聞かれます。そうしてみると医療が進歩したとはいえ、昔も今もあまり変わらないのかなという気もしてきました。

旧東海道でしょうか、「右 富田一色、東洋紡績、川越村 道」や「津市元標へ拾里」など石の道しるべや「間の宿 富田」の案内板などを見ながら歩きました。富田は桑名宿と四日市宿の間にある立場の中で最も大きく間(あい)の宿と呼ばれていたそうです。また、間の宿での宿泊は禁止されていたそうです。



富田 間の宿案内板 など

明治天皇御駐輦跡

維新の偉業もようやく成って、明治天皇は江戸を東京と改称された。

明治元年九月二十日、車駕にて京都を出発し東京へと向かわれた。二十四日には四日市に御駐輦、翌二十五日富田茶屋町広瀬五郎兵衛方に御少憩になり、富田の焼き蛤を御賞味になられ、十月十三日東京に入られた。

その年の十二月八日、京都へ帰られる途中、十九日に再度五郎兵衛方にご少憩になられた。

翌明治二年三月七日、京都をお発ちになり、神器を奉じていよいよ東京に遷都される時、三月十五日、またもや五郎兵衛方にご少憩になられた。

明治天皇御駐輦跡の碑は、公爵 近衛文麿の筆である。

またしばらく歩くと学校の校庭の横に黒い色の石碑が立っていました。碑文には「明治天皇御駐輦跡」とありました。



薬師寺で小休止

またしばらく歩くと今度は薬師寺というこじんまりとしたお寺に到着し、境内で小休止しました。

薬師寺

五十一代平城天皇の大同年間(八〇六〜一〇)頃このあたりに百薬に手を尽くしても疾病が流行し諸人は大変苦しんでいた。このことを東国の旅の途中に知った弘法大師は、ここに足を止め、薬師如来を彫り開眼した。すると、たちまち夕立の雲の晴れるが様に諸人の難病は平癒していった。諸人は弘法大師に感謝するとともに、城山にお堂を建ててこの薬師如来を祀ったという。

次に向かったのは、浄土真宗本願寺派 光明山 常照寺というお寺です。境内も広く大きなお寺でした。本堂の右側には親鸞聖人御像があり、またその横には「大寺の藁の反りや秋の雲」の句碑がありました。

常照寺を後にしました少し歩くと今度は茂福神社へつきました。地元の方によると茂福(もちぶく)と濁るのが正しい呼び名だそうで、子供の頃はよく遊んだ場所とうかがいました。また、終戦の後、境内に穴が掘られ、その穴に廃棄する鉄砲が沢山埋



常照寺の境内と親鸞聖人御像

められ、また、その鉄砲が一夜にしてどこかに運び去られたとの話もありました。何か怖いような話ですが、なるほど昔はそんなこともあったんだろうと思わせるような場所でした。



パワースポットか？茂福神社

手水舎の横に建てられた厚板の定書きには神社らしく右のような文言がありました。しかし、よく見ると境内には車の轍の後もあり、なかには不心得の人もいるのかなと思われました。

定

- 一、境内に於いて左の條項を固く守りましょう
- 一、大前を汚穢しない事
- 一、社殿を損傷しない事
- 一、車馬を乗入しない事
- 一、魚鳥を捕獲しない事
- 一、樹木を伐採しない事

茂福神社

茂福神社を後にして、少し歩くと茂福城址が見えてきましたが、横目に見て通り過ぎました。茂福城の由来は案内板には下記のように

書かれていました。

また、城山には熊野大社から取り寄せて植えられたという榎(なぎ)の木が大きく枝を広げておりました。

茂福城跡

平維茂の子孫、平貞冬が越前朝倉よりこの地へ来て城を築き朝倉を名乗った。保々西城の朝倉備前守と同族である。

永禄 10 年(1567)にいたり最後の城主 茂福掃部輔 豊は織田信長の武将滝川一益のため長島城へ誘い出され殺された。

城主を失った茂福城兵は滝川勢と激しく戦ったが攻め落とされたという。

滝川一益は目代として置き治めさせた。



城山の榎の木



稲田の農道

茂福城址を後にし、しばらく稲刈りの終わった一面 田ばかりの農道をゆったり歩きました。

写真を撮りながら歩いていると知らぬ間に先頭集団から引き離されてしまいます。お〜〜い、待ってくれ〜〜

やがて到着したのは伊賀留我神社でした。この神社は2019年5月11日の春のハイキングに訪れたところで懐かしく思いました。当時は天皇陛下御即位ののぼりが境内に掲げられにぎやかな雰囲気でしたが、今回はしっとりとした中で閑散としておりました。それでも以前にはあったトイレが無くなっていたりして、静かなたたずまいの中でも時は確実に動いているように感じました。

そこからまた少し歩くと別の神社につきました。社(やしろ)の扁額には伊賀留我神社とありました。近いところに同じ名前の神社があり不思議に思いましたが、この辺り一帯は古代の役所があったところなので、それにかかわる何か必要な理由があったのでしょうか。ここも不思議なところですよ。

この後は、垂坂公園まで歩き昼食となりました。広々とした日当たりの良い場所を確保して乾杯となりました。ひゃー！最初のビールの一口が何とも言えない。甘露！かんろ！。しかし、適切な距離を確保しつつの飲食とはいえ、コロナの中でもあり、人の目を気にしながらの昼食でした。



伊賀留我神社の鳥居



第二の伊賀留我神社



垂坂公園での昼食風景



集合写真 垂坂公園にて

2021/11/13



2021.11 秋のハイキングコース

昼食後、みんなで集合写真を撮り、近鉄霞ヶ浦駅まで歩いて散会となりました。風もなく好天に恵まれたハイキングでした。これも皆さんの日ごろの行いの結果なのではないでしょうか。有難し。

それでは次回のハイキングでまたお会いしましょう。

2021/11/23